

“巡りゆく季節の中で”

キラキラキラ…

山あいの道から見上げた青空にいくつかの光点を見つけた。よくよく見ると、それは谷から吹き上がる風に乗って舞い上がった落ち葉が日光を反射する姿。

俯きながら登る私の眼を美しさに溢れた世界に釘付けにしてくれた。

秋の一日、山は美しく着飾り、私たちの眼を楽しませてくれる。

それはやがて来る冷たく暗い季節を前にして、ひと時の白日夢を見せてくれているようにも思える。

もし、人の一生を四季に例えるなら、春夏を如何に過ごしたかで山々の錦もその色合いは異なってくるだろう。

春には黙々と己の足下を踏みしめ、夏には惜しまず清らかな汗を流せ。

秋はおのずと美しい錦絵を見せてくれるはず。

それは次の季節を耐え忍ぶための熱となり、次に巡りくる世代の力となるのである。

時の過ぎ行くは捷し、^{はや}心して歩め。



あなたが旅立って幾つもの季節が過ぎました
 まだその年齢には遙かに及びませんが
 私もそれなりに白髪が増えました
 今さらながら気づくことも増えました
 自分がどれ程大切にされていたのか：
 忘れていた思い出が鮮やかに浮かびます
 今年ももうすぐあの日が来ますね
 明日花を買ってきます
 大好きだったお酒も少し
 みんなに集まってもらって
 昔話もしましょう
 温かかったあの頃のように

令和三年 年回忌表

一周忌	令和二年 亡
三回忌	令和元年 亡
七回忌	平成二十七年 亡
十三回忌	平成二十一年 亡
十七回忌	平成十七年 亡
二十三回忌	平成十一年 亡
二十五回忌	平成九年 亡
二十七回忌	平成七年 亡
三十三回忌	平成元年 亡
三十七回忌	昭和六十四年 亡
五十回忌	昭和六十年 亡
五十七回忌	昭和四十七年 亡
百回忌	大正十一年 亡

お年忌は
 お早めに御住職へご相談ください。

定例布教

毎月二十六日 午後一時半より
 (ただし、二十六日が日曜日の場合、翌日二十七日となります)

布教道場 大念佛寺 瑞祥閣